

ご意見ご連絡は下記へどうぞ

北海道熊研究会事務局 北海道野生動物研究所内(Tel. 011-892-1057)

代表 門崎 允昭 e-mail: kadosaki@pop21.odn.ne.jp

事務局長 Peter Nichols ピーターニコルス氏

幹事長 藤田 弘志 氏

北海道熊研究会」Hokkaido Bear Research Association

Website は「北海道野生動物研究所」と入力して下さい

「北海道熊研究会報」読者の皆様へお知らせ

2014年8月18日から連日13回にわたり、北海道新聞の夕刊紙面の、「私のなかの歴史」で、「ヒグマ研究45年」と言う題で、私(門崎允昭)が、私の「ヒグマについての考え、人と熊の共存策」等を口述、編集委員の「中尾 吉清」さんが取材文章化し、掲載されました。その第6回目、8月23日(土曜日)掲載を、遅れましたが、ここに再録しますので、ぜひ、お読み下さい。

3 6版

2014年(平成26年)8月23

私のなかの 歴史

北海道にヒグマは何頭いるのか。有名な「ヒグマ3千頭説」があります。犬飼哲夫先生が昭和10年代に唱えた、当時の捕獲数、出没状況などから算出したものです。

犬飼先生は、前にもお話ししたように被害の見地からのヒグマ研究者。成果を市民に還元しなければなりません。求められる成果とは、被害を減らすこと。「有効な手段が確立できないなら、生息数を減らしてしまえ!」—そういう

動物学者

かどさき
門崎

まさあき
允昭さん



ヒグマ研究45年 ⑥

圧力にさらされる立場です。私は、クマが捕獲された場所、性別、連れていた子クマの数、年齢などを調べ、それを基に道内の

野外調査する犬飼哲夫先生。必ずナタを携帯していた

1975年、札幌・定山溪

人との共存 すみ分け 日常的には成立

ヒグマの生息地、生息個体群の詳細な実態が分かると考え、犬飼先生にお話ししました。

明治時代の初めからずっと雄雌、年齢などの制限がなく捕獲されてきたので、捕獲したクマの統計を取れば、その性比、年齢などは生きているクマにも当てはまるはずですね。

1977年、先生は私の考えに賛成して、その調査を行うよう道に申し入れたのですが、具体化しませんでした。そこで翌年から開拓記念

館が独自に調査することになりました。犬飼先生が代表者となり、たくさん総研の協力を得ました。

当時の全道212市町村にクマ

の捕獲場所、年月日、推定年齢、性別、農作物・家畜・養蜂の被害などをアンケートし集計。私が現地を調査しました。「トウモロコシ畑が荒らされた」と回答があつても、1畝全滅なのか、一部の

かも調べました。それらによって、その場所をクマが長期にわたって利用しているのか、たまに来ただけなのか、なども分かります。

調査の結果、84年時点で生息数は子グマが生まれる前の段階で約1900頭、生まれた後は約23

00頭と推定されました。性比はメス1頭に対してオス1・2頭、母が伴う子グマは平均1・52頭などということも分かりました。

ほかにも重要なことが分かりました。ヒグマの生息域に関するこ

とです。ヒグマが春夏秋冬の1シーズン以上、あるいは越冬、あるいは年中通して居る場所を「恒常的生息地」と定義しました。84年時点で、全道の面積の約50%であることが明らかにりました。

そこは山地・丘陵の森林、草原などに限られ、人とヒグマが接して暮らす混生地域はもはやなかった。これは、日常的には人とクマ

との間で「すみ分け」が成立していることを意味します。

「これでクマとの共存も夢ではなくなったね」「こんな調査を僕はやりたかったんだよ」。犬飼先生はそう言って非常に喜ばれました。

それから先生と私はたびたびヒグマの保全策を話し合いました。北海道の森林面積の10%（全道の7%に相当）の56万畝（大雪山系23万畝、日高山地25万畝、知床・阿寒山地8万畝）を保存地区として残す、といった具体策です。

「1900〜2300頭」は現在もしばしば引用されますが、あれから30年。今にも当てはまるかは分かりません。増えている、ということはないと思いますが。（聞き手・中尾吉清）

<追記>

今年(2014年)8月27日、札幌市で、熊1頭を、農協の判断で檻で獲り捕殺しました。場所は、西区小別沢(コベツザリ)138番地の、トウモロコシ畑で、電気柵の無い部分から侵入した雌、推定7〜8歳、(体長145cm 体重121kg:実測値)の由。これについては、新聞・テレビとも、報道しませんでした。電気柵を完全に張れば、防げたこの事象を、皆さんはどう考えますか。私は、この件について、殺さない策を提言せず、殺す事を優先させた、行政に関与している研究者なる連中とその他関係者(行政と農協と報道機関)を非難したい。